

第4回
定例会

一般質問

区政をただす

二次元コードから、各質問者の録画映像をご覧になれます。

西武新宿線

開かずの踏切問題を問う



立憲・国民・ネット・無所属議員団 ひやま 隆

①都の事業評価委員会において、西武新宿線(中井駅～野方駅間)の連続立体交差事業については、事業完了が現行スケジュールから更に7年延伸され、2034年3月末となることが明らかになった。これまで様々な場面で「スケジュールは間に合うのか?」と質疑をしてきたが、その度に「2027年3月末の事業完了に向けて取り組んでいる」との答弁のみで、肝心な進捗状況についての報告は一切なかった。「開かずの踏切」の解消は、地域にとって長年の

の事業スケジュール変更の際し、地下化完了時期の見直しについて何う。

区長 ①現在の事業期間は2027年3月末までとなっているが、事業主体である東京都からは、2034年3月末まで事業期間を延伸する見込みであり、事業認可の変更に向けて国土交通省と協議を行う予定と聞いている。延伸となった主な要因は、用地取得に時間を要したことや、シールド工事における作業時間を見直したためと聞いている。②東京都からは、地下化完了の時期について、2032年度の予定と聞いている。

十分な効果検証を踏まえた
予算編成とせよ

自由民主党議員団



伊藤 正信

コンタクトセンター導入の
成果を問う

区は、経常経費化した事業はもとより、投資的事業等も十分に検証し、見直しを図っていくとしている。しかし、例年、見直し事業よりも新規拡充事業の方が多く、スクラップアンドビルドが機能していない。来年度予算編成をどのように取り組むのか。

区長 手法の検討、執行体制の見直しを含めた予算要求を徹底させている。

区長 ①直ちに示すことは困難である。②区民対応の質的向上等に繋げたい。

地域包括ケアに対する
区長の姿勢を問う

公明党議員団

甲田 ゆり子



①区が進めてきた地域包括ケア体制は現状で十分との考えか。また、今後どのように発展させていくのか。②高齢者の終活や権利擁護支援における区の役割をどう認識しているか。③専門職と連携した相談窓口を整備することを検討してはどうか。

女性の健康支援を問う

区長 ①地域の見守りや医療・介護の連携など、一定の成果をあげてきた。今後は、フレイル予防や健康増進、健康無関心層へのアプローチなど、予防に力点を置く。②区として、終活についての不安の解消や普及啓発、相談支援

に繋がるのでは。

区長 ①事業者や医療機関と連携し、女性のライフステージに応じた健康支援を推進する。②事業者との協働による保健室イベントを検討している。③健康改善の行動変容に効果的な内容を検討する。

狭あい道路の電柱対策を問う

セツトバックや隅切り後も電柱の残存があると狭あい道路の解消にならないため、事業者任せではなく区が主体的にフォローすべきではないか。

区長 移設先は事業者が調整するが、区として移設依頼した電柱の位置や移設できない場合の理由等、状況を確認していく。

区民との合意形成に向け、
意見交換会等の改善を図れ

日本共産党議員団

武田 やよい



①中野駅新北口駅前エリアのまちづくりに関する区民意見交換会の状況を踏まえて、区として「中野駅北口をどのような空間にしていきたいか」「譲れない点は何か」といった明確なイメージを発信すべきではないか。②11月の意見交換会等は、内容的には前回とさほど変わらず、参加者も減少していたと思うが、同じ方法の繰り返しでは区民との合意形成を図るのは難しく、改善が必要ではないか。

桃園川緑道のリニューアルを

単なる緑道・公園整備ではなく、北は西武線の鉄道上部空間、南は桃園川緑道を「歩きたくなるまちづくり」のモデルに位置づけて検討しては。区長 「(仮称)歩きたくなるまちづくり構想」の中で、優先的に取り組む地区の

ミドル期シングルへの支援を

考え方を整理していきたい。1980年に35万人であったミドル期シングルは、2020年に326万人と40年間で約10倍になり、その中で東京都区部が最も多いと聞くと、対象とする政策はほぼなく、高齢期に達した段階で新しい社会問題が発生する可能性がある」と指摘されている。区は、政策を検討すべきであり、まずは実態調査から始めては。

区長 令和2年度に暮らした状況と意識に関する調査を行い、40・50代からも一定数の回答を得ている。調査の分析を足掛かりに、単独世帯の実態把握を行い、各年代における課題を整理していく。

厚生委員会視察報告



11月6日(木)から7日(金)に、富山県富山市の「まちなか総合ケアセンター」についてと、富山県の「富山型デイサービス」について視察を行いました。写真は富山県での様子です。



スマホや
タブレットで
なかの区議会
だよりが
読めます



(iOS用)



(アンドロイド端末用)

特別支援学級卒業後の
切れ目のない障害児支援を

都民ファーストの会中野区議員団

内野 大二郎



①特別支援学級卒業後、福祉計画に反映させるべきと考えるが、区の見解は。

区長 ①支援の充実に向けて、当事者やその家族の実態を調査し、新たなサービスである就労選択支援も活用しながら、卒業後の進路や支援について充実に図っていく。②適切な支援が継続できるよう、実態調査の結果を次期障害者計画に反映していきたい。